

◇編集後記◇

本号をもって、早いもので2012年(54巻)の最終号をお届けすることとなりました。今年のニュースを振り返って所感を二つばかり述べさせていただきます。

一つは山中伸弥教授のiPS細胞に関するノーベル賞受賞…と同時に、話題となった某博士の同iPS細胞の臨床応用の虚偽報告のニュースです。国民の科学への信頼を大きく損なった点で遺憾千万です。さらに、共著者(投稿すら知らなかったケースも含めて)や査読者・編集委員の審査(チェック)の目をかいくぐり、一流雑誌がアクセプトしてしまった事実は、peer reviewのしくみが十分に機能しなかった点で、編集側にもあらためて強く警鐘を鳴らす事象でした。もはや旧聞に属する話になりますが、ワープロがなかった時代は論文一つを書き上げるにも、指導者の入念なチェック(手書き!で書き直しの繰り返し)が入ったと聞きます。ある意味では、論文不正がしにくい古き良き時代だったのかもしれませんが、しかし、デジタル・マスプロ時代の今日では、虚偽報告、捏造、二重投稿、盗用などさまざまな論文不正に対して、査読者や編集委員も細心の注意を払って、虚々実々を見抜く眼力がますます求められてきていることを

痛切に感じさせられるニュースでした。

二つ目は、田中眞紀子文部科学大臣による来春新設の大学認可をめぐるニュースで、数週間前に連日世間を騒がせたのでご存じの方も多いと思います。その是非はともかく、わが国の大学の現状に活を入れる必要がある点では、国民の間でも一定の支持があると思われます。タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)による、今年の「世界大学ランキング」では、東大以外のわが国の上位校が昨年より順位を落とし、一方、国際化を進める他のアジア諸国の大学の躍進が目立つ中で、「日本全体としては憂慮すべき結果」とレポートされました(日経10/4)。一つの評価ものさしの結果に一喜一憂する必要もありませんが、わが日の丸の学術雑誌も国際的な潮流からガラパゴス化しないように、常にアンテナの感度を良くし、また積極的に情報発信していくインフラであるべきでしょう。本誌もその一翼を担えるよう、(編集委員はもちろんのこと)学会員の皆様の一層のご支援をせつに望みます。

来年も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

(杉森裕樹)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：益島 茂(三重大)

副委員長：樺田尚樹(国立保健医療科学院)、杉森裕樹(大東文化大)、高尾総司(岡山大)、
武林 亨(慶應大)、玉腰暁子(北海道大)、那須民江(中部大)、西田和子(久留米大)、
平工雄介(三重大)、藤野善久(産業医大)、毛利一平(三重大)、八谷 寛(藤田保健衛生大)

石竹達也(久留米大)、井上和男(帝京大)、植嶋一宗(津保健福祉事務所)、梅津美香(岐阜県立看護大)、小笹晃太郎(放射線影響研)、萱場一則(埼玉県立大)、川口陽子(東京医歯大)、熊谷信二(産業医大)、黒沢洋一(鳥取大)、近藤尚己(東京大)、酒井一博(労働科学研)、佐々木美奈子(東京医療保健大)、菅沼成文(高知大)、田中昭代(九州大)、田中紀子(国立国際医療研究センター)、土井由利子(国立保健医療科学院)、中尾睦宏(帝京大)、中村裕之(金沢大)、馬場園明(九州大)、原田浩二(京都大)、東 尚弘(東京大)、福島哲仁(福島県立医大)、堀口兵剛(秋田大)、丸山総一郎(神戸親和女子大)、三木明子(筑波大)、三宅達郎(大阪歯大)、村田勝敬(秋田大)、八幡勝也(産業医大)、大和 浩(産業医大)、吉田貴彦(旭川医大)、渡邊博且(産業医大)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番